

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992500090		
法人名	ミツイ商事		
事業所名	グループホームえにし苑		
所在地	那珂川町谷川1609		
自己評価作成日	平成26年09月30日	評価結果市町村受理日	平成26年12月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成26年10月23日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの方は泊まりきりなので、外部との交流が図れるよう、行事で出かけたり、外部からボランティアさんと交流したり支援しています。えにし苑の農園に出て野菜作りをし、今年は盆踊り大会でフライドポテトを模擬店に出店するのにじゃがいも切りをしたり、季節の作業をして頂いています。少しでも残存機能の低下予防のために、その人に合った出来る事を見つけお手伝いして頂いています。誕生会、小学校との交流会は小規模と一緒に行き交流を図っています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成24年に、小学校跡地に、校舎を利用して開設したグループホームで、小規模多機能型居宅介護事業所を併設している。広い旧校庭に建つ開放的な雰囲気や歴史の長い小学校は、近隣の住民にとっても家族が関わってきた馴染みの場所で、改築した校舎内には、地域コミュニティーのための部屋も設置されており、地域交流の場所となっている。手作りの農園では、さつまいも、さといも、ねぎ、かぼちゃ、なす、ピーマン、ゴーヤなどを栽培し、収穫された物は利用者の楽しみとなると同時に、地域の行事にも活かされている。地域に開かれたこのグループホームは、地域交流会にも積極的に参加し、喜ばれている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティング時、理念の唱和を行い、ほぼ全員の職員は理念の共有をしている。理念の目的をミーティングの場で常々、職員に話しています。	事業所の理念を玄関先に掲示し、日々のケアの目標としている。朝の申し送りやミーティングの際に、職員が唱和し、更に内容の理解を深めていくことによって、自分たちが質の高い介護サービスを実践できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流を持つ事でグループホームの存在を理解して頂けるよう心がけている。学校の廃校ということで、校庭でグランドゴルフをしたり、地区の大会の様子を見学したりしている。地域の方を職員としても雇用している。	地域の方々が事業所に入出入りし、常に交流がある。今年は地域交流会の行事である「花の風まつり」に事業所が参加したり、町主催の夏の盆踊りも事業所内の元校庭を会場として開催している。グランドゴルフの見学も、利用者の楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	花の風祭に参加し、認知症の寸劇を行い認知症に対して理解して頂いている。また、えにし苑便りでも連載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二カ月に一度の運営推進会議で利用状況や施設の様子を広報や行事録で報告し評価を頂いている。議題によっては、議題に合ったメンバーの協力を得ている。	併設の小規模多機能と合同で、2ヶ月毎に会議を開催している。利用者家族・役場・地域包括支援センター・行政区長・老人会会長・民生委員等が参加し、事業所の状況報告、各議題について質疑応答が行われ、今後の事業所の活動に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に町担当者・地域包括支援センターで参加しており、意見や助言を仰いでいる。困難なケースの相談を受けたり対応をしている。又、見える事例検討会を取り入れています。	運営推進会議を初めとして、日頃から行政との関係を築いている。事業所が相談助言を得ると同時に、行政からの困難案件の紹介があった場合は、家族・専門家・民生委員など関係者が集まってケア会議を開き、困った方の救済に当たる等取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしている。指定基準において、職員は禁止の対象となる具体的な行為を勉強会やミーティングで話し合い理解している。	身体拘束はもとより言葉による拘束についても職員が勉強会に参加し、理解を深めている。管理者は、常に具体的な言葉かけの際、気になる点があった場合には、申し送りやミーティングで注意を促している。玄関の施錠は、安全のため夜間のみ行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングで指定基準の共通理解を図ると共に、入浴時や日常生活の場で身体に異変がないか常に注意を払っている。虐待の兆候が見られた時には町の担当者・包括支援センターに相談したり町の担当者からも虐待の相談があった場合は受け入れている。		

グループホームえにし苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制等に関する勉強会を開き職員の理解を図っている。現在、後見制度を利用している対象者はおりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度の説明・重要事項説明等でサービス内容・料金など説明を行い納得を頂いている。サービス開始前に体験利用の説明もさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時や改定時には、重要事項説明書、契約書を詳しく説明している。また、面会時や来苑時に話された事は貴重な意見として上司に報告し、運営に反映されている。家族会をつくり、意見等を受け入れやすい機会をもうけております。	昨年夏発足した、小規模多機能と合同の家族会の代表者から、イベント等の機会に幅広く意見を取り入れるようにしている。また、家族等面会時に現況を伝えると同時に、意見を得られるよう努めており、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はミーティング等で、出された意見を聞き、改善できる点は検討し、職員全体で生かしている。また、代表者は月に一度職員と面談し、意見を聞き改善できる点は改善につなげている。(係長制度導入)	管理者は日頃の会話やミーティングの際に、職員の意見を聞き、提案を取り入れている。更に代表者も、月1回職員との面談の際に意見を聞いている。実際にミーティングを行う時間帯について、職員の意見を取り入れて改善をした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や具体的な実績、勤務状況等を把握し、職員のやりがい反映や向上心を持って働けるよう対応している。労働時間は職員も相談に乗り、休暇も取れる様に配慮している。記録システムを導入した事で記録の軽減が図れた。実績報告により手当が給与に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の研修会を開き、交替で参加し、技術の向上に努めている。また、TMCの管理者研修で得た知識を各事業で取り入れている。力量評価を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町主催の研修会には、職員も研修会に参加し同業者と交流を図っている。		

グループホームえにし苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入するにあたって、本人・ご家族様の気持ちを受け止めて職員と安心して話ができるよう担当者は特に傾聴に心掛けている。入居後も随時本人の言葉に耳を傾け介護計画に反映している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今までの生活歴を丁寧に聞き、少しでもご家族が安心して行けるようにしています。入所するに当たってグループホームのあり方の話も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時は、担当者がご家族や本人の要望や不安に思っている事を伺っている。また、サービス開始直後は施設の様子をご家族様に伝えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アセスメントで得た情報から本人の得意とする所を見つけサービスに結び付けている。会話の時間を増やし、今の困りごとは何かを常にお聞きし信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご本人の現状報告や相談をさせて頂いている。些細なことでも家族に報告したりご家族の要望をきちんとお聞きし取り組んでいます。面会時は交流を大切にし情報の共有にも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも気軽に立ち寄って頂けるよう友人・知人に声を掛けさせて頂いている。馴染みのボランティアも積極的に受け入れるよう努めている。面会時は、居室でお茶やお菓子を提供し一緒にゆっくり過ごして頂いている。	友人知人の来訪があると、ゆっくり過ごしていただき、再度来てもらえるよう声かけをしている。語り部・歌・フラダンス・誕生会でのギター演奏等、幅広いボランティアを積極的に受け入れ、利用者の楽しみと関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や相性を把握し座席の配置に配慮している。会話や行動を観察しながらその日の支援に結び付けてます。		

グループホームえにし苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても野菜を下さったり、苑に立ち寄って下さる。何かある時は相談に応じることも発信しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画書に基づいて本人の意向を傾聴し要望に応じている。	日々のケアの中で利用者の発言に耳を傾け、表情を読み取り、本人の意向を把握するよう努めている。家族からの聞き取り情報を得て、意向の反映に活かすこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	受入れ検討会を入所前には行い、本人に対してのカンファレンスを強化しております。又、入所する時にはなじみものを持参すようにしており、寝具類・衣類等持参されております。お位牌を持参されている方もおります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ある程度の決まりの時間はあるが、その時の体調や本人の申し出により一日の暮らし方をその方に合わせている。又システムにて詳細の情報を記入し職員が把握できる体制になっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を立てる時には話し合いをし、計画の確認をし家族からの承認を得たうえで実行しています。PDCAの取り組みをしています	介護計画の見直しは、モニタリングを行い、利用者の様子にあわせて6ヶ月に1回としている。利用者の状況に変化があった場合には、すぐに対応し、家族、医師の意見を取り入れて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアは業務日誌・業務記録で記載し、申し送りにて情報の共有をしています。個々の変化で特に重要なことは赤字で記載しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化に伴いレベルの低下がある時には職員同士でケアカンファを行い状況に合わせている。又、月に一回担当者が広報にて家族に状況などを記載しています。		

グループホームえにし苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政・インフォーマルな地域の資源等に支えられながら、苑と共同し支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院には家族対応されているが、月2回の担当医による往診も行われており、緊急時には電話対応やその都度の往診も行われている。	歯科・眼科・皮膚科・内科でかかりつけ医がある場合、家族の協力を得て受診している。場合によっては職員が通院の支援をしている。また、事業所の協力医が月2回利用者の往診を行う他、全利用者の変化に対応し、安心して医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、申し送り時には必ず出席し、情報の共有を図っている。また、業務日誌による情報の共有も図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側からの連絡は密に行われており、退院時には拡大カンファレンスに出席し出来るだけ早期に退院できる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	元気なうちに本人・家族からの意向を聞き、週末に向けた話を家族と話し合っています。状況に合わせてその都度話もしています。話し合いの中でどのように終末期を希望されていることの聞き取りを行っています。	看取りの実績がある。あらかじめ、家族・協力医・事業所が終末期の話し合いをして意向・方針を共有し、状況に合わせて話し合いを重ねて、職員にも看取りについて申し送りをし、体制を整えている。協力医の柔軟な対応と事業所のサポートにより、看取りの体制が支えられている。	今後、看取りの要望が更に多くなる可能性がある中、事業所の看取りについての考え方を文書で示し、利用者家族・事業所、両者にとって安心に繋がるよう、看取りの方針等を文書化した同意書を作成することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応の研修やAEDの使い方を練習し緊急対応を身に付けている。夜間待機者と連絡が取れる体制にもなっている。訪問看護との契約も結んでいるので、緊急時・事故発生時の対応と取れている。連絡がすぐわかるように掲示を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練も実施し、町の要請で緊急時の避難場所の指定も受けており、契約されている。日曜日に避難訓練を実施し、地域の方の協力も頂けるようにえにし便りでも働きかけている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練が、消防署立会いで実施されている。職員は、利用者の誘導方法、機材の使い方を身につけるよう努めている。また、事業所が地域の避難場所となっており、区域長等一部住民の参加がある。米などの食糧の備蓄をしている。	今後、更に災害時の地域協力体制の強化のため、緊急連絡網に地域の方々にも入っていただき、避難訓練等幅広く地域住民の参加を期待したい。

グループホームえにし苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症が重くとも否定することなくまずは受け入れることを心掛けている。トイレ等も出来るだけ外から見守っている。プライバシーの保護を社内研修に取り入れている。尊敬と尊重の心構えを職員はもち、介護業務に取り入れています。	社内研修やミーティングで、人格の尊重とプライバシーを大切にしよう職員に指導している。トイレへの声かけは耳元で行い、見守りを心がけている。入浴に気が進まない利用者にも無理強いせず、声かけも「温泉に行きましょう」等と工夫をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事の好き嫌いや何気に聞いたことで本音が出るので、言いたいことを自由にいえる雰囲気作りをしています。レクリエーション等は選択できるように働きかけています。自己決定が出来やすくするため。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れは決まっているが、食事を遅らせたりおやつを遅らせたり寝たい方は寝たりしています。強制はしていません。利用者の身体状況や精神状況に合わせてその人に合った時間で過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴者の着替えは1式用意しまとめているが、日常の着替えは自由に行っている。一つでも選んでもらうように心がけている。その人らしい衣服用意を行う。判断可能な方は職員と選んでいます。又、起床時は必ず身だしなみを確認し一部介助も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房の方は盛り付けの工夫や会議を開き季節の献立や行事食を考えている。嗜好調査や普段の生活の中で好き嫌いもうかがっている。又、野菜切りなど手伝い、食の楽しみも促しております。	利用者の嗜好や季節感を取り入れて、職員が献立を考えている。食材は、地元の品を多く購入して地産地消に努めている。できる方には、皮むき等の手伝いをしてもらいながら一緒に食事作りをしている。また、事業所の畑で収穫した食材で、おやつや保存食を作り、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的にメニューの見直しを行い利用者の希望に添えるように努めている。毎食食事のチェック。必要摂取量がとれない利用者には、栄養補助食品等も利用してます。夏場はホール内に常時飲めるように用意してます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には口腔ケアを行っています。体調の悪い方や歯磨きのできない方はイソジンガーゼで拭き取っています。また、柔らかいスポンジで拭き取っています。		

グループホームえにし苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の排泄介助の他、その方に合った時間・様子の変化で対応している。自立の方の見守りも行っています。	排泄状況をデータ化し、職員が共有している。変化があった時も確実に申し送りしている。自分でトイレに行く方が半数で、職員が時間で誘導する等、利用者一人ひとりの様子を見て支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事では繊維質のものを多くし、便秘薬を使用している方は医師に相談し薬によるコントロールもしています。水分量を把握し、自然排便できるように行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴はふつう自宅では夜行っていますが、施設やえにし苑は昼間に入浴されています。	入浴は午前中に行っている。1日3~4人、ひのきの浴槽で職員が付き添う個浴の体制になっている。庭で収穫したゆずを湯に入れたり、薬草や入浴剤を工夫して、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣は一人一人違うが、居室に行くと寝てしまいますので、日中はホールで過ごしている事が多い。皆でレクや談話・歌などを楽しんでいます。本人が落ち着ける場を確保しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医より指示のあった薬を内服確認しています。新しい薬の処方には、状態の変化や様子を記録している。薬の説明書を参考にし状態の変化等は看護と介護の連携を図っています。		
48		-8 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴や嗜好を確認し、個人の楽しみや趣味の把握に努め、些細な役割が生きがいにつながるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	定期的にドライブや外食の機会を設けてます。ご家族様の中には定期的に外出の機会を持って下さる方もおります。季節ごとの外出も計画し、季節を感じられるようにしています。	季節感を大切に、リンゴ園や紅葉狩り等、月1のドライブや外食を楽しむ外出支援のほか、車で買物にも行っている。今後も外出の機会を増やす計画である。ウッドデッキを設置する予定もあり、更に身近で外気浴を楽しめるようになると思われる。	



グループホームえにし苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方にはお小遣い程度を自己管理してもらっています。自己管理の難しい方は必要に応じてお預かりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けたい時には代わりに電話をつなげたり、携帯にかけたり支援しています。年賀状作りを計画しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにはいつも利用者様の折り紙や作品を飾り季節の変化を実感しています。暑さ・寒さ・音・等調節しています。ご自分で衣服の調整できない方には声かけで快適生活出来るように支援しています。当事業所はトイレの清掃にも力を入れております。	元校舎をリフォームした建物は、明るくゆったりとした共用空間になっている。空調も完備され、寒い冬には床暖房が入る。季節の植物や、思い出に繋がる品々が飾られている。構造上死角になる場所にはモニターを設置し、安心して過ごせる空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は職員が利用者様の様子や気の合う方と合わない方を見極め時々座席の位置・配置を決めています。居心地の良いように配慮しています。居場所づくりでその人に合った場所の提供を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒の危険がある方には物を置かない工夫をしているが、自立されている方は今まで使い慣れた洋服や寝具をもってきていただきハンガーにかけ好みの洋服を選んで頂いています	個室にはベッドとクローゼットが設置されている。転倒の可能性のある方の場合、部屋に何も物を置かず、日用品は別スペースに収納する工夫をしている。利用者一人ひとりが、自分好みの家具を持ち込み、壁を写真等で飾るなど居心地の良い部屋にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を使い、できることは日常生活の中で野菜切り等をレクレーションの一環として取り入れ声かけをし、自立した生活を目指しております。		